

# 福島林業

No. **581**

題字 福島県知事 佐藤雄平



1

2013

かんしゅう■福島県農林水産部  
表紙の写真■真綿に包まれて



# 「“新生ふくしま”をめざして」

福島県知事  
佐藤 雄平

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。  
東日本大震災からまもなく一年十か月を迎えます。

本県は、十五万人余の方々方が県内外で避難生活を余儀なくされるなど、依然として厳しい状況が続いており、多くの方々方が今年もふるさとで新年を迎えられないことは本当に残念でなりません。一日も早く全ての県民が安心して暮らせる環境を取り戻さなくてはならないと決意を新たにしております。

昨年は、厳しい状況の中でも、「ふくしまから はじめよう。」を合言葉に、復興への第一歩を踏み出し、県民の皆さんのためまぬ御努力、国内外からお寄せいただいた多くの御支援により、本県は着実に元氣を取り戻し、明るい話題も増えてまいりました。本年は、この歩みをさらに加速させてまいりたいと考えております。

県では、震災からの復興を果たした三〇年後の姿を展望した県総合計画「ふくしま新生プラン」を策定しました。

基本目標は、「夢・希望・笑顔に満ちた “新生ふくしま”」。

若い世代が将来に夢や希望を持っていきいきと活躍できる社会、安全・安心で原動力に依存しない持続的発展が可能な社会を目指してまいります。

そのため、除染、健康管理、防災対策の充実などを進め、県民生活の安全・安心をしっかりと確保してまいる考えであります。米の全量全袋検査や十八歳以下の子どもの医療費無料化など、本県が独自に始めた取り組みも継続してまいります。

また、地域経済を震災前の水準に戻し、さらなる発展を期して、農林水産業や既存企業の再生はもちろん、再生可能エネルギーや医療機器関連など時代をリードする産業の集積を進め、「先駆けの地」を目指してまいります。

さらに、大河ドラマ「八重の桜」の放送に合わせ、会津を始め県内全域で観光を盛り上げ、改めて本県の魅力を広く発信してまいります。

昨年、少年の主張全国大会に出場したいわき市の中学生は、震災後に受けた支援に感謝し「『助けあいのバトン』をしっかりと渡せるようにしたい」と述べています。

「人のため、ふるさとのために尽くしたい」「夢を持って未来に進みたい」、そうした子どもたちの声を聞くたびに、美しく豊かな県土を取り戻し、次の世代に引き継いでいかなければならないとの思いを強くしております。

多くの方への感謝とふるさとへの誇りを胸に、子どもたちの笑顔あふれる明るく元氣な「新生ふくしま」を目指し、復興に全力で取り組んでまいることをお誓いし、年頭のごあいさつといたします。

## 《も く じ》

とびら	普及指導員通信…………… 8
「“新生ふくしま”をめざして」	緑の募金コーナー…………… 9
福島県知事 佐藤 雄平…………… 1	公社だより…………… 10
新春特集	森林管理署メモ…………… 11
森林・林業の再生に向けて…………… 2～4	木材市況・ふくしま東西南北…………… 12
林業研究センターだより…………… 5～6	はなしのひろば…………… 13
林道を訪ねて3,000kmシリーズ（第15回）	
「旧三条線（現在は室谷本名線に合流）との出会い」… 7	

# 森林・林業の再生に向けて 震災からの復旧・復興の現状と課題

平成二三年三月に発生した東日本大震災及び原発事故により、県内の森林・林業・木材産業は甚大な被害を受けました。その復興に向けては多くの課題があり、まだその取り組みも緒に就いたところでありますが、放射性物質により汚染された森林の再生、林業・木材産業の復興のため、取り組んでいる内容について、報告します。

なお、本県の森林の再生、林業・木材産業の復興のため、各都道府県から、職員の派遣をはじめ、多大なる御支援をいただいておりますことに、この場をお借りしまして、御礼申し上げます。

## 1 森林の除染と再生 (森林計画課)

環境省資料を基に県内民有林の放射性物質による汚染状況を県が試算した結果では、〇・一三マイクログロシーベルト/時以上は約二六五千鈔(民有林面積の約半分)に及んでいます。

このような状況において、環境省が定める森林除染は住居等近隣二〇程度を対象とした落ち葉等の除去に限定されていることから、森林全体の除染について速やかに方針を決定するとともに実施に関するロードマップを早急に示すよう、国に対して要望してきたところです。

県が第一に要望しているのは、環境省による森林除染の実施(国直轄除染の推進、地域の実情に応じた生活圏周辺の森林除染の実施、荒廃森林からの放射性物質の拡散防止対策の実施)です。環境省は、県等の要望に対応して「森林除染に関するワーキングチーム」を設置し、調査等により知見を集積し検討することとしており、県としても、現在実施中の汚染状況調査や伐採等による実証試験の結果を提供するとともに、具体的な提案を行い森林除染の実施を促してまいります。

また、その他の森林については、森林所有者の皆様の理解と協力を得ながら、間伐等の森林施業と放射性

物質の除去・低減を一体的に行うとともに生産される木材を有効に活用して、森林再生、林業復興を進めていく考えです。

## 2 林業・木材産業の振興 (林業振興課)

### (1) きのこ、山菜、たけのこの緊急時環境放射線モニタリング

きのこ、山菜、たけのこ等の特用林産物は、原発事故に伴う放射性物質汚染の影響を受け、多くの品目において、出荷が制限されている状況です。(表1)

本県においては、農林水産物の安全性確認及び消費者への情報提供を目的として緊急時環境放射線モニタリングを実施しており、特用林産物についても、平成二四年度は十二月末までに一、二二三件のモニタリング検査を実施しています。(表2)

栽培きのこについては、生産資材

表1 出荷制限の状況

栽培きのこ	3品目	17市町村
野生きのこ	※1	48市町村
山菜・たけのこ	7品目	31市町村
樹実類	2品目	2市町村※2

※1 すべての野生きのこが出荷制限対象  
※2 県からの出荷自粛要請

表2 モニタリング実績 (H24. 4月~12月)

栽培きのこ	23品目	609件
野生きのこ	31品目	181件
山菜・たけのこ	15品目	416件
樹実類	3品目	27件
計	72品目	1,233件

(ほだ木、菌床等)の安全性を確認し、たうえで、きのこの放射性物質を測定する二重チェックを実施し、食品の放射性セシウム基準値を超過するものが出荷されないよう対応しており、この結果、今年度(十二月末まで)のモニタリング検査においては、基準値を超過した事例はありません。

山菜やたけのこ、野生きのこについては、発生初期に旧市町村や大字単位で検体を収集し、基準値を超過したものが出荷されないようモニタリング検査を実施しています。

### (2) 県産材の検査体制を整備する取り組み

放射性物質による木材の汚染に対

表3 【平成24年9月の調査件数の内訳】

区分	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	合計
事業者数	23	35	23	33	9	11	22	156
検体数(本)	225	217	172	254	60	76	220	1,224

【平成24年9月の調査結果】

区分	表面線量 (cpm)					合計
	未検出	~20	~40	~60	60以上	
工場数	60	87	6	3	0	156
検体数(本)	954	251	14	5	0	1,224

最大値：51cpm 最小値：0cpm 平均値：2cpm

する不安を払拭するため、林業・木材関係団体に検査機器等の整備の支援を行いました。  
また、県内製材工場を対象に、平成二十三年十一月から定期的に製材品の表面放射線量を測定し、現在出荷されている県産材の安全確認を行っております。  
直近の調査結果については、表3のとおりです。これまでの調査で測定し

た検体数は三、一四七本、表面放射線量の最大値は九二cpm（〇・〇〇三）マイクロシーベルト/時に相当で、放射線の専門家からは、「環境や健康への影響はない」という評価が得られています。今後とも、県内で生産された木材（県産材）で製造された製材品に対する風評被害を防止するとともに、安全・安心な県産材の利用促進を図ってまいります。

**(3) 木質バイオマス燃料の安定供給に向けた取り組み**

福島県は震災・原発事故からの復興に向け、原発に依存しない再生可能エネルギーの利用拡大を推進しており、二〇四〇年頃を目途に県内エネルギー需要量の一〇〇％以上に相当する量を再生可能エネルギーに転換することを目標としています。  
平成二四年七月から、再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）が開始され、木質バイオマスに

よる発電もその対象となり、全国で森林面積が四番目に多い本県において、木質バイオマスは、最も身近な再生可能エネルギーのひとつとして利用拡大が見込まれています。  
そのため、これまで十分に利用されず林内に放置されることが多かった間伐材等未利用材を燃料として県内木質バイオマス発電施設等で利用するため、林内からの搬出、燃料加工施設までの運搬に対し支援を行うこととし、平成二四年度の事業量は、四万立方メートル（一、五〇〇円/立方メートル）となっております。



製材品の調査状況

平成二四年七月から本格的稼働がはじまったグリーン発電会津河東発電所（会津若松市）は、FIT制度に基づくバイオマス発電所として全国で初めて設備認定を受けた施設です。これらをはじめとした施設に燃料を供給する事業者の取組を支援すること  
で、木質燃料の安定供給体制構築と林業の活性化に繋がることが期待されます。



グリーン発電会津河東発電所の外観

表4 林道施設災害復旧事業の実施状況 平成24年11月30日現在

農林事務所名	査定箇所数 ①	発注箇所数 ②	発注率 (%) ②÷①	完了箇所数 ③	完了率 (%) ③÷①	未発注箇所数
県北	42	42	100	41	98	0
県中	39	37	95	31	79	2
県南	23	23	100	23	100	0
会津	15	14	93	10	67	1
相双	11	11	100	4	36	0
いわき	8	8	100	8	100	0
合計	138	135	98	117	85	3

\*南会津農林事務所は被害なし。

林道施設の被害は平成二四年十一月三〇日現在、三三八路線、九六一箇所、約十三億二千万円で、災害査定の結果、一三八箇所、約七億二千万円が決定されました。  
林道を管理している市町村では、災害査定が終了した箇所から順次復旧事業に着手し、査定箇所約九八箇所にあたる二三五箇所が発注され、そのうち二七箇所が完了しています。

**3 林道施設の復旧状況**  
(森林整備課)

1 被害の発生状況  
三月十一日に発生した地震及び津波により県内では多くの治山災害が

#### 4 林地及び治山施設の復旧状況について (森林保全課)

また、未発注の三箇所についても準備が整い次第発注される予定となっております。早期復旧に向け引き続き市町村を支援してまいります。(表4)



復旧状況 林道施設災害復旧事業



新鶴・柳津線 (会津美里町)

③ 林地崩壊防止事業  
保安林以外の箇所では、林地崩壊防止事業（事業費…約一億五千万円）での復旧を行いました。八箇所で行った復旧は、全て復旧工事が完了しています。

④ 治山事業

津波で流失した海岸防災林、保安林の崩壊箇所については、治山事業での復旧に取り組んでいます。特に海岸防災林については、津波に対する減衰力が発揮されるよう林帯幅を拡大出来る箇所については拡大して整備することとして取り組んでいます。今後とも計画的な予算確保に努め、早期の復旧に努めてまいります。

① 治山施設災害復旧事業  
被災した治山施設については、十一箇所の災害査定が完了し、査定金額は約五三億円となっております。現在、一箇所が完了し、四箇所での復旧工事を実施しております。残りの箇所については、国協議が終了次第、工事を発注する予定です。

② 災害関連緊急治山事業  
地震により崩壊した山腹等のうち、公共施設等に被害を及ぼす恐れが高い箇所については、災害関連緊急治山事業（事業費…約十一億円）での復旧を行いました。八箇所で行った復旧は、全て復旧工事が完了しています。

③ 林地崩壊防止事業  
保安林以外の箇所では、林地崩壊防止事業（事業費…約一億五千万円）での復旧を行いました。八箇所で行った復旧は、全て復旧工事が完了しています。

④ 治山事業

津波で流失した海岸防災林、保安林の崩壊箇所については、治山事業での復旧に取り組んでいます。特に海岸防災林については、津波に対する減衰力が発揮されるよう林帯幅を拡大出来る箇所については拡大して整備することとして取り組んでいます。今後とも計画的な予算確保に努め、早期の復旧に努めてまいります。

⑤ 放射性物質に関する試験研究  
(林業研究センター)

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、本県の森林・林業・木材関連の研究が放射性物質対策を抜きにしては対応できない事態となりました。



復旧状況 災害関連緊急治山事業 深沢地区 (天栄村)



当初は、放射性物質に対する知見がない中での手探りの状態でしたが、国の各研究機関や様々な大学と連携し、研究を進めています。平成二三年度の結果につきまして、当センターのホームページに掲載しておりますので、これらの成果が放射性物質対策の参考になれば幸いです。

このため、当センターでは、平成二三年度の実施を予定していた十三研究課題の内、二課題を休止、四課題を縮小し、放射性物質関連の研究を行いました。

平成二四年度は引き続き、七通常課題の外、十四の放射性物質関連の研究課題に取り組んでいます。また、平成二三年九月下旬には分析機器が配備され、年間四〜五千点のきのこ、きのこの関連資材、木材、土壌、落葉等の放射性物質の測定も行っていきます。

このため、当センターでは、平成二三年度の実施を予定していた十三研究課題の内、二課題を休止、四課題を縮小し、放射性物質関連の研究を行いました。

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、本県の森林・林業・木材関連の研究が放射性物質対策を抜きにしては対応できない事態となりました。

## 林業研究センターだより 森林施業による空間線量の 推移について



落葉除去作業

主任研究員 **渡部 秀行**

### I はじめに

本県の森林は東京電力福島第一原子力発電所の事故により、広域に放射性物質で汚染されました。

そのため、林業研究センターでは放射性物質による森林の汚染実態の把握とその対策に関して多方面から試験研究に取り組んでいます。

その一つとして空間線量の比較的高い地域において、森林施業（落葉除去、間伐等）による放射線量低減化とその後の放射線量の変化について調査している現状を報告します。

### II 試験地の状況

・試験実施場所

福島県伊達郡川俣町山木屋地内  
（現在計画的避難区域）

福島第一原子力発電所の西北西約三五キロメートル付近、標高約六五〇メートル

#### 試験地の概要

##### 1 スギ林

林 齢 四〇年生  
生育本数 一、七〇〇本

斜面方位 東

斜面傾斜 約十五度

##### 2 落葉樹林

林 齢 約三〇年生  
主な樹種 コナラ、クリ、ヤマザクラ、ホウノキ等

斜面方位 北

斜面傾斜 約二〇度

### III 試験方法

試験は落葉等の除去、間伐、皆伐等による森林施業による空間線量等の変化を調査することを目的としました。

調査地は、縦方向が斜面向、横方向が斜面向に対し直角の方向とした斜面に四〇メートル×四〇メートルの調査区を設置し、その中に縦横一〇メートル間隔で格子を設定しました。

測定値は格子の交点に調査点を設け、地上高一メートルにおける空間線量を測定しました。

### IV 試験結果

試験地の施業後の翌春の状況は、スギ試験林（写真1）**、**落葉樹林（写真2）のとおりでありましたが、林床は秋期にスギ試験林が草本類（写真3）**、**落葉樹林が前生樹の萌芽とクマイザサ（写真4）になりました。

測定値は時間経過に伴う自然減衰率（計算式に

単位：μSv/h

表-1 森林除染地の空間線量の推移

試験地	項目	施業前	森林施業内容			
			落葉除去後	スギ林 (30%間伐) 落葉樹林 (30%抜き切り)	皆伐後	
スギ林	測定日	平成23年11月4日	平成23年11月18日	平成23年12月5日	平成24年7月26日	平成24年11月28日
	実測値	5.56	4.62	4.28	3.25	3.01
	最小・最大	4.23~6.75	3.50~6.09	3.25~5.81	2.25~4.31	2.49~3.77
	自然減衰した値	5.56	5.51	5.45	4.71	4.38
	自然減衰した値 -実測値	0	0.89	1.17	1.46	1.37
落葉樹林	測定日	平成23年11月24日	平成23年12月7日	平成23年12月15日	平成24年6月7日	平成24年11月28日
	実測値	3.99	3.05	2.84	2.35	2.13
	最小・最大	3.47~5.13	2.26~4.39	2.15~4.13	1.81~3.39	1.64~3.45
	自然減衰した値	3.99	3.96	3.94	3.53	3.18
	自然減衰した値 -実測値	0	0.91	1.10	1.18	1.05

※空間線量の実測値は試験地の平均値

※自然減衰した値は施業後の空間線量に時間経過による減衰率を乗した値



写真-2 落葉樹林試験地の除染後の状況  
(平成24年5月)



写真-1 スギ林試験地の除染後の状況  
(平成24年5月)

より求めた時間経過に伴い減少する空間線量を考慮しました。調査点の平均値は、スギ林試験地の場合、空間線量が施業前に五・五六マイクロシーベルト/時でしたが、



写真-4 落葉樹林試験地の秋の状況  
(平成24年11月)



写真-3 スギ林試験地の秋の状況  
(平成24年11月)

落葉除去により自然減衰した値との差が〇・八九マイクロシーベルト/時、三〇割間伐により一・一七マイクロシーベルト/時になりました。その後冬期間に皆伐を行い、雪の影響

伐採による空間線量の低下が小さいのは、樹木は放射線を遮蔽する効果も有しており、小面積の伐採においては、周囲の森林からの放射線が、伐採により遮蔽効果がなくなるため直接に測定地点に到達することによるものと推測されます。

施業後の調査（スギ林が六月と十一月、落葉樹林が七月と十一月）では、各調査点において空間線量に大きな変化は見られず（自然減衰による減少のみ）、今後、土壌調査も含め継続調査を行っていくとしています。

を排除するために翌年に計測した結果一・四六マイクロシーベルト/時になりました。（表一、図一）

落葉樹林試験地では、空間線量が施業前三・九九マイクロシーベルト/時でしたが、落葉除去により自然減衰した値との差が〇・九一マイクロシーベルト/時、三〇割間伐により一・一〇マイクロシーベルト/時になりました。その後冬期間に皆伐を行い、翌春に計測した結果一・一八マイクロシーベルト/時になりました。（表一、図一）

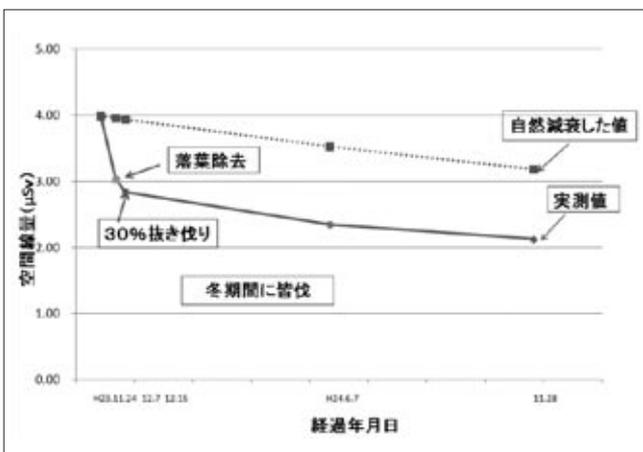


図-2 空間線量の推移 (落葉樹林)

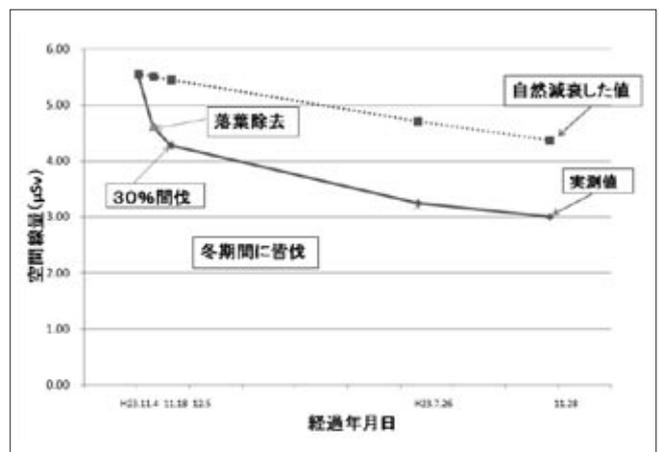


図-1 空間線量の推移 (スギ林)



## 林道を訪ねて3,000kmシリーズ（第15回）

# 旧三条線（現在は室谷本名線に合流）との出会い

技術士 中村多伸

路線名	旧三条線	幅員	4.0m	延長	850.9m
市町村名	大沼郡金山町本名地内				
開設年度	昭和47年～昭和52年	事業名	林道改良事業		

### 1. 旧三条線（現在は室谷本名線に合流）との出会い

今回は、趣向を変えて、設計者や監督員という立場ではなく「工事検査員」としての出会いから始める。昭和47年頃は綱紀肅正が叫ばれ厳正な工事検査が求められ、当時森林土木の検査担当者として3名が常時配置されていた（課長補佐相当職）。私自身は設計積算の担当者として配置されていたので、検査業務とは直接関係はなかったが、ある日上司から緊急に検査の必要があるので「部長命令」という青発議を受けて、臨時の検査員として出掛けることになったが、検査の対象は「橋梁」の竣工検査であり、橋梁についての知識の少ない自分にとっては針のむしろの状態であった。

なぜそんなに急ぐのかと尋ねると、その背景は複雑で、当該林道はブナ材の生産基地で、会津若松市内の漆器の原材料として、適期に生産拠出して水中貯水池で管理しないと、材料の価値がなくなることから、計画的にブナ材の生産・搬出・管理が求められていたもので、工事の完成日時があらかじめセットされていて、期限内に供用出来ないと違約金を支払う契約になっていたのである。しかし、平職員で「部長命令」という異例の検査員ではあるが、命令なので渋々と電車に乗り継いで行くことにしたが、とんでもないことが待ち受けていようとは想像も出来なかった。

### 2. 現地の状況

- ①当該橋梁は、30m程度のスパンであったが、従来のPC桁工法や現場打ちではなく、簡単に説明すれば、地覆までの形を工場で作成し、これらをピアノ線で緊張して施工するもので、当時は県内で初めて施工されるという画期的な工法として注目を受けていた。ブロックを糸で引っ張る状態を想像すると理解できるといいます。
- ②この工法は、現場条件や搬送経路等により、制約がかかる場合で、山岳地帯や現場が狭い等に適合するもので、工期の短縮が期待されることから、前述したような背景もあって計画されたと説明された。
- ③当地区は岩盤を切り開いて幅員を確保していて、写真のような状況の中で通行していたが、危険であることから数箇所に亘る改良計画が進められていた。
- ④しかし、前述したような「ブナ材」の搬出等があって、長期間の通行止めが困難なことから、短期間で施工が出来る当工法が採用され、現在ではこの橋の付近には5基が設置されている。

### 3. なぜ異変に気が付いたのか

- ①さて検査であるが、設計図書に照合して形状寸法等に異常がなかったのであるが、現地は急峻で足場が岩盤である等危険な状態であったが、何故か足場を気にしながら下方から目視したら、継ぎ目にクラックらしきものが認められた。
- ②ブロックそのものではないが、クラックの幅が異常と感じたのが最初である。そのクラックもスパンの中心部分にあり、活荷重をかけての判断が出来なかったが、ブナ材の搬出を検査の完了を待っているトラックが列を成して待機していたのを活用することが出来ないかと協議し、活用し踏み切った。
- ③低速度で走行し、木材を積んだトラックの積載加重を計算して、歪を計算する手法で測定した。木材を満載にした加重はミンミンと音を立て、強い揺れが始まり打継ぎ目が瞬間的に開く状況は、落橋の危険を感じた程である。まさに天の助けである。未然に発見できずに転落事故等が発生していたら、どうなっていたのだろうか。



現在の既設林道（左側は絶壁）



山側のオーバーハングの状況

### 4. その後の処置

- ①当時農地林務部内で当該の判定について部課長会議が開かれ審議されたが、「検査員」の独自性を重視して、検査員自ら判断するように求められた。上司も同僚も助言や干渉をしない環境で、施工会社の事情聴取を繰り返し、自ら「再施工」の検査調書を交付した。何日も眠れない日々が続いたことを思い出す現地調査になった。
- ②当時の施工会社の社長は、監督員を営業課長に抜擢し、二度と同じ過ちを起こさないために、その当事者が指導や営業をすることがベターであるとの会社の判断は、私の心に強く美しいものとして残り、人を育てるためのリーダーの果たす役割や大きさ・心の広さ等、自分の人生にとっても大切なことを学ぶことが出来た。約30年ぶりに再会した現場はあの時と少しも変わらず自然のままであるが、この事件が昨日のように思い出す一日となった。恐らく福島県の工事検査の歴史の中で一枚しか無い「再施工」の検査調書は今残っているのだろうか。

# 「森林づくりワークショップ」の 取り組み

■ 県南農林事務所  
林業普及指導員 渡部 昌俊

森林法改正に伴い、平成24年度より大きく森林計画制度が変わりました。目玉は、市町村森林整備計画のマスタープラン化と森林経営計画制度の創設です。前者は、市町村が森林づくりの基本方針を示し、ゾーニングを行っています。後者は、森林所有者等が立てる5年間の計画で、森林経営に主眼が置かれており、森林施業の集約化がなされることが前提となっています。

当管内でも4月に市町村森林整備計画の変更が行われ、森林経営計画の認定が始まっています。しかし、これらの計画は準備期間が短かったことから、森林づくりへの地元住民の考え方が十分に盛り込まれたものになっていないのが現状です。

そこで、真に地域の意向を反映した計画を作り、地域の森林・林業の活性化につなげるにはどうしたらいいのか？今回、東白川郡矢祭町<sup>おおぬかり</sup>大塚地区をモデルとして取り上げ、普及指導員からワークショップという方法を町に提案しました。これは、従来、説明会という形で行われていたものを、主体をあくまで住民側に置くことにしたものです。

茨城県と接する大塚地区<sup>おおぬかり</sup>は、過疎化・高齢化が進む約50世帯の農山村で、住民同士のまとまりが良く、大きな共有林を有しています。この共有林を中心に地区内5林班中3林班で森林経営計画が策定されていますが、個人所有林の多くは未だ計画策定には至っていないため、モデル地区に選定しました。

平成24年12月20日、<sup>おおぬかり</sup>「大塚の森林づくりを考える会」を開催し、森林所有者11名の参加のもと、地区の森林づくりについて話し合いを行いました。

会では、はじめに矢祭町による町森林整備計画の説明、次いで東白川郡森林組合による森林経営計画の策定状況の説明が行われ、説明の後、森林所有者が2グループに分かれ、普及指導員・町・森林組合が中に入って、個人個人の森林づくりの意向を訊いていきました。個別の聞き取り結果は、所有山林は小規模、高齢化が進んでおり跡取りも地元にはいない、ちょっとした手入れをする人はいても自分で木を伐って出す人はいない、というものでした。

それを全体で共有するため、全体協議を行い、地区としての方向性を誘導しました。方向性としては、①長伐期の森林を目指す。②共有林を中心に個人所有山林を取りまとめ、森林経営計画を立てる。個人への働きかけは主として森林組合による。となりました。

今回は、同意を取りまとめた段階で「考える会」を開催し、作業路網や山土場の設置などの具体的な内容に移行していく予定です。

今後、今回の取り組みを他地区・他市町村へと広げていき、地元に着し充実した計画になるよう市町村や計画作成者等を支援していきたいと考えています。



<sup>おおぬかり</sup>  
「大塚の森林づくりを考える会」

花いっぱい県民運動  
**第45回 花いっぱいコンクール～表彰式～**  
 2012.11.28（水）



団体の部 表彰



個人の部 表彰



受賞者の挨拶

第四五回花いっぱいコンクールの表彰式が十一月二八日、福島市の福島民友新聞社で開かれました。コンクールは福島民友新聞社、福島県森林・林業・緑化協会、農林中央金庫福島支店の主催で、優れた花壇づくりや緑化活動に励んだ団体や個人に各賞が贈られました。

今回、県知事賞の、福島製鋼株式会社（福島市）、玉川村立川辺小学校（玉川村）、青柳地区花いっぱい運動盛り上げ隊（南会津町）、小名浜西五区連絡協議会（いわき市）など、団体の部三三団体、個人の部五人の方々が受賞されました。受賞された上位の団体の中から全国花のまちづくりコンクールに推薦されます。

受賞者代表から謝辞が述べられました。その中で「笑顔の広がる地区づくり」「花の力で県民の生きる力に少しでもなれば、と願って花づくりに取り組んでいる」といった震災・原発事故からの復興への願いが込められた言葉が強く心に響きました。

今後、花を通じて県民の輪が広がるよう、こうした活動を広めてまいります。

第27回  
**ふくしま緑の  
 写真コンクール  
 優秀作品展示**

「早春のクリスマスローズ展」において作品を展示しますので、是非ご来場下さい。

と き：  
 平成25年2月22日（金）～  
 平成25年2月24日（日）

ところ：  
 あづま総合運動公園

平成24年度 福島県優良建設工事知事表彰記念

**「緑の募金」贈呈式**

日 時：平成24年12月18日（火） 13：30～  
 場 所：ふくしま中町会館6階 特別会議室

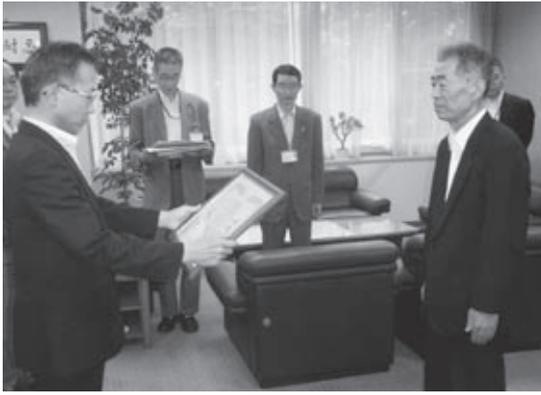
平成二四年度福島県優良建設工事知事表彰を記念して十五社の企業から「緑の募金」を寄贈していただきました。（募金総額三十五万円）

贈呈式には五社の代表者が出席し、十五社を代表して東邦土建工業株式会社の代表取締役 馬場富男氏から福島県森林・林業・緑化協会 齋藤卓夫副会長へ目録が贈呈されました。

寄附をいただいた企業には同協会の齋藤副会長から感謝状をお贈りいたしました。

「緑の募金」は県内の緑化推進や森林整備、緑の少年団の育成などに役立てていきます。今後ともご協力をお願いいたします。

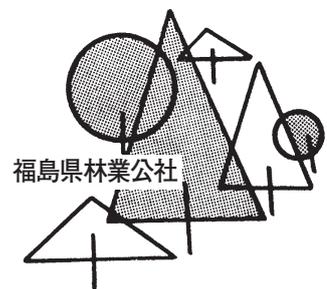




津金要雄（つがね もとお）前猪苗代町長が、昨年六月二十九日、全国森林整備協会会長から表彰を受け、同年七月十三日、村田文雄福島県林業公社理事長（福島県副知事）から感謝状と記念品の贈呈が行われました。津金前理事は、平成十三年六月から十年間にわたり非常勤理事として

公社だより

全国森林整備協会  
表彰伝達式



て当公社の事業運営に御尽力をいただき、森林整備事業発展に多大な貢献をいただきました。

経営改革の取組みについて

林業公社は、昭和四十二年四月一日の設立以降、森林の持つ公益的機能の増進を図り県土の保全と農山村の振興及び住民福祉の向上に寄与することを目的とし、分収造林事業を実施してまいりました。

しかしながら、事業運営に必要な資金の大半を借入金に依存しているため、近年の木材価格の下落（ピーク時の約九分の一）により、現状のままでは将来多額の損失が発生すると見込まれることから、公社造林地を引き続き適正に管理していくことがきわめて厳しい状況となっております。

そのため、当公社では平成十一年より改善計画を策定し、公社の人員削減や事業所の廃止、木材販売増収対策などによる財務の健全化のほか、森林整備に関する以下のような取り組みを行っております。

【経営改善重点事項】

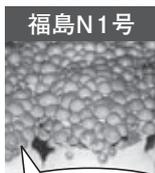
- 森林整備の重点化
- 木材販売増収対策
- 人件費等管理費の節減
- 森林施業の合理化
- 借入金利子の軽減
- 分収割合の変更（公社六割・土地所有者四割↓公社八割・土地所有者二割 など）

特に、「分収割合の見直し」は収支改善の柱の一つであり、土地所有者の皆様のご支援が大変重要となっております。平成二四年十一月末現在の進捗率は六四・八割であり、とりわけ市町村及び財産区の変更契約は九八・〇割となるなど、一定の成果が得られています。

これら計画の各項目は、公社のみでの取り組みでは達成が困難であり、引き続き土地所有者の方々をはじめ、受託事業者及び市町村の皆様のご協力をお願いいたします。

きのこで地域を元気に (社)福島県森林・林業・緑化協会  
きのこ振興センター

●菌床栽培用ナメコ(登録品種)



安定多収量



大型・滑り少

●原木栽培用ナメコ(登録品種)



コナラ原木で安定・多収量  
食物繊維、ペクチン様物質豊富



- その他各種種菌
- 菌床
  - ・シイタケ
  - ・ハタケシメジ
  - ・ムラサキシメジ等
- マイタケホダ木
- 栽培資材

〒963-0112 郡山市安積町成田字西島坂7-2 Tel 024-947-2188 Fax 024-947-6926  
E-mail:f-kinoko@mtj.biglobe.ne.jp URL:http://www.f-kinoko.org

磐城森林管理署メロ

## 森林除染実証調査 について



磐城森林管理署は浜通りにおける国有林野の管理経営を担っています。本誌平成二三年十月号では、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の被災直後の対応や取組について紹介させていただきました。今回は、現在林野庁が当署管内国有林で実施している「森林除染実証調査」について紹介いたします。

林野庁は昨年四月に「森林における放射性物質の除去及び拡散抑制等に関する技術的な指針」をとりまとめましたが、そこで提案された皆伐や間伐などを除染として行うためには、効率的な実施方法などさらに知見を蓄積する必要があります。

このため、「森林除染実証調査」

では、皆伐・間伐等の森林施業や落葉・落枝除去、表土流出防止、植生回復工の実施による放射性物質拡散防止及び低減効果を実証することを目的とし、あわせて放射線影響下での作業となり通常に比べ手間がかかる作業となることからそれらの実施に必要な仕様や歩掛を把握することとしています。

調査地は、相馬郡飯舘村の佐須地区と八木沢地区の国有林内に設けられており、佐須地区はスギ人工林（二五年生）二・四鈴、八木沢地区はアカマツ人工林（四〇年生）三・〇鈴が調査対象となっています。事前に空間線量の測定、試料（土壌、樹木）の放射性濃度分析を含む森林

概況調査を行いながら、落葉・枝葉等除去、間伐・皆伐、作業道・土場作設及び表土流出防止措置について調査をします。

立木伐採に関わる調査はそれぞれの地区において、皆伐区（林縁部に〇・二ヶ）、間伐区、無施業区を設けて実施し、このうち間伐区は定性間伐、列状間伐など三種類の区域を設定します。伐採木については現地保管のうえモニタリングを継続し、枝等はチップ化しフレコンパックに梱包することとしています。また、表土流出防止の措置としては、木柵設置や土嚢積み、植生回復工（皆伐区において植生シート）を試みることにしています。

本調査は森林除染の技術確立の基礎となる情報を得るためのものであることから実施によって得られたデータについては、作業前後の比較等詳細なデータ分析を行うこととし



実証調査の作業風景

ております。また、除去物質の保管や、表土流出防止については本件調査後においても引き続きその維持管理や経過観察が必要であり、モニタリングを計画する予定です。

国有林以外でも福島県や関係試験研究機関により様々の調査が行われているところであり、林野庁では多くの知見を集約することにより早期に森林における除染技術を確立を目指す考えです。

# 木材市況

## 素材の価格〈工場着価格〉(10月15日現在)

(単位: m<sup>3</sup>当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9 (8~9)	1	(0~0)	0	9 (9~9)	0	9 (8~9)	1
		10~13		並	スギ	11 (11~12)	0	9 (7~11)	0	12 (12~12)	1	11 (7~12)	1
	中	14~18	3.00	並	スギ	13 (13~13)	1	11 (10~11)	1	12 (10~13)	1	12 (10~13)	1
				並	ヒノキ	19 (15~24)	0	(0~0)	0	17 (17~17)	0	18 (15~24)	0
		6.00	並	スギ	19 (16~24)	△1	(0~0)	0	15 (14~16)	0	17 (14~24)	△1	
			並	ヒノキ	24 (24~24)	0	(0~0)	0	20 (15~26)	0	22 (15~26)	0	
	20~28	3.65	並	スギ	13 (13~14)	0	12 (12~13)	0	13 (12~14)	1	13 (12~14)	0	
		4.00	並	アカマツ	11 (9~13)	1	13 (13~13)	1	10 (9~10)	1	11 (9~13)	1	
		1.80	並	アカマツ	8 (5~10)	1	(9~9)	0	9 (9~9)	0	8 (5~10)	0	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	23 (23~23)	0	(0~0)	0	24 (24~24)	0	24 (23~24)	0
並				米マツ	26 (24~28)	0	26 (26~26)	0	24 (22~25)	0	25 (22~28)	0	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	23 (23~23)	0	23 (23~23)	0	
			並	ベニマツ	27 (27~27)	0	(0~0)	0	23 (23~23)	0	25 (23~27)	0	
南洋材		70~90	8~14	並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
				並	アガチス	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
パルプ用材			並	マツ	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
			並	広葉樹	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(9~10)	0	9 (8~9)	0
	13~14		並	カラマツ	9 (8~9)	0	8 (7~9)	0
	16以上		並	カラマツ	10 (10~11)	0	11 (10~11)	0

注) 1. 前月差の△印は値下りを、\*印は前月実績がなかったことを示す。  
 2. ( )内は各地域の価格幅、( )外は各地域の平均的価格を示す。  
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。

九月の原木市場への入荷状況は、前月比五五割増(前年比三割減)の二三、二九八立方材となっている。販売量については、前月比四六割増(前年比五割減)の二三、二八六立方材となっている。年明けの取扱量は前年比増で推移していたが、震災以降は取扱量が落ち込み、平成二三年一〜九月の取扱量は前年比で入荷量六割減、出荷量六割減となっている。十月の価格については、引き続き強気配である。

「美女峠の里まがた」(三島町間方地区)には、「美女峠」(県道・車は通行不能)と「大辺峠」(林道・入間方不動沢線)の二つの峠があります。どちらも昭和村に通じる峠で、美女峠には「平家落人の悲恋物語」、大辺峠のある大辺山には「かしゃ猫」の伝説があります。今回は、大辺山の「かしゃ猫」伝説にちなみ命名した「かしゃ猫トレッキングロード」を紹介します。「志津倉山」と言えばご存じの方も多いかもしれませんが、この志津倉山がある一帯を大辺山と称します。この大辺山の国有林内には、「ブナ」「トチ」「サワグルミ」の巨木と「雨乞岩」等があり、地区では、これらを巡る全長二キロ程のトレッキングコースを県のサポート事業及び町の地区支援事業の補助を受けて新設しました。



トチの巨木

去る十月二一日には、トレッキング大会を実施しました。当日は県内外から五〇人の参加者があり、地区の長老五人によるコース内の巨木等の案内を行うとともに、集会所において、かしゃ猫伝説の紙芝居を披露する等、参加者と地区民との交流も行い、なごやかな時間を共有することができました。今後、トレッキング大会を継続して実施し、地区外からのエネルギーをいただきながら、少しでも山村の活性化を図りたいと考えております。皆様も是非おいでください。「かしゃ猫」及び「悲恋物語」の伝説の内容については、次の機会があれば、紹介させていただきます。



### かしゃ猫トレッキングロード

会津農林事務所  
 専門技術管理員

菅家 壽一

はなしの  
ひろば

## 正月行事

子供の頃、元日の朝一番にやることは「若水汲み」だった。集落の中にある湧き水の井戸に行き、ヤカンに柄杓で清水を汲んでくるのが子供の仕事だった。何か言葉も唱えながら汲んだ覚えがあるが忘れてしまった。雪の少ない暖かい年は良かったが、吹雪で手がかじかんで大変な年もあった。井戸には、他の家の方もやってきて「あけまして、おめでとーございます。」と挨拶を交わして、順序よく若水を汲んでいった。汲んできた清水を沸かし、家族全員で梅干しを入れたお茶を飲むのが、一年の食べ、飲み始めである。

その年の無病息災を願うことである。集落内の井戸水は、大変美味しかったことを覚えている。親からは、遠くの山に降った雨が何十年もかけてここに出てきていると教えられた。

集落の井戸はとうの昔になくなってしまった。「若水汲み」の風習もなくなってしまったのだろうか。我が家では、今でも元旦の最初の仕事は若水汲みから始まる。味気ないが「水道」からである。

我が家には、年越し蕎麦も雑煮もなかった。元日の朝は、焼き餅だった。七輪の炭火で焼いた餅をアankoやきな粉、納豆などをまぶし、また、のりを巻いて食べた。飲み物は、当然ながら梅干しお茶である。

蕎麦は、昼に食べるものだった。子供の頃からのレシピである。世の中に、年越し蕎麦や雑煮というものがあつたことを知ってから後も、我が家の元日は、焼き餅と年越し蕎麦である。食文化を守るといってはいけないが、なぜか正月は「かくあるべし」という気持ちである。

蕎麦つゆは、飼っていた鶏のガラからとったつゆに決まっていた。大晦日近くなると、母が鶏を絞っていたのを見ていた。当然、餌やりなど世話をしてきた鶏なので、かわいそうという気持ちはあつたが、それより、「ごっつおう」が食べられるという気持ちの方が勝っていた。今は、スーパリーのトリガラである。

画一化してきている社会の中で、子供の頃からの習慣や行事・遊びから得られるものは、原体験・原風景として心に残り、大人になっても違和感なく受け入れられるし、継続して行うことができる。近年、森林セラピーをはじめ、アニマルセラピーや園芸セラピーなどが注目を集めている。樹木や草花、動物や昆虫などの生命と触れ合うことが、同じ生命である人に何らかの影響を与えてくれるし、人は何かを感じるのだから。多くの生命が宿る森の中でする遊びや体験は、特に子供達にとって限らない可能性を与えてくれるものと思っている。将来、日本を背負って立つ、感受性豊かな大人に育ってほしいよう、多くの子供達が森の中に戻ってくれる一年になることを願っている。

安達 董風

## 表紙の写真



### 「真綿に包まれて」

第9回ふくしま森林・林業写真コンクールで入選となった小林正義さん(石川町)の作品。

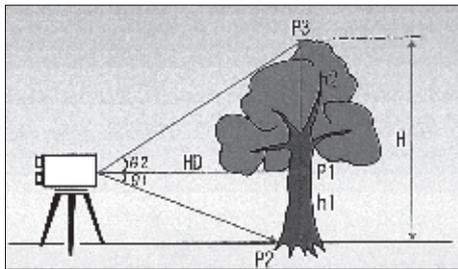
### 編集

### 発行

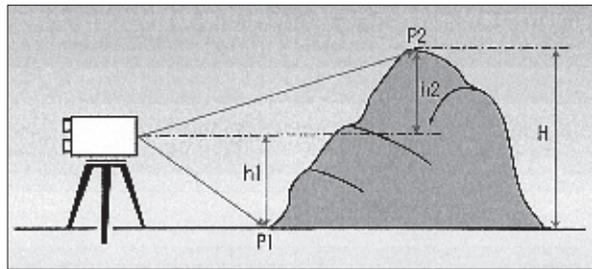
福島県内四森林管理署  
福島県森林・林業・緑化協会  
福島県森林組合連合会  
福島県木材協同組合連合会  
福島県農林種苗農業協同組合  
福島県農林業公社  
森林総合研究所福島水源林整備事務所  
福島県森林・林業・緑化協会  
(福島市中町五番一八号県林業会館内)  
相馬 雅俊  
陽光社印刷株式会社  
(定価 六三円)

## 高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合

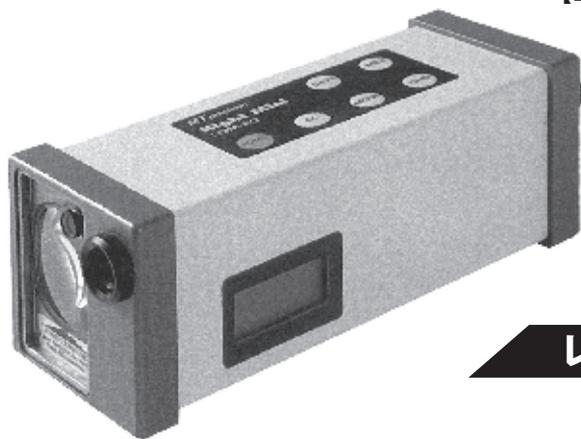


2. 堆積物等の山なり形状の場合



### 【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	± 5mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定	高さ・水平距離・斜距離
寸法	W64・H64・D180
重量	650g
付属品	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



# LDM-20

## レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

### 株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

# 備えのパートナー 森林国営保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



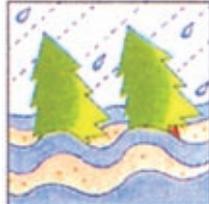
## 1 火災

山火事で受けた損害



## 2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



## 3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



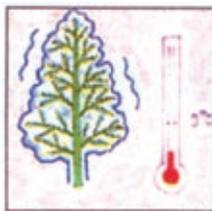
## 4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



## 5 干害

乾燥による枯死などの損害



## 6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



## 7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



## 8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

- ◆ 県内各森林組合
- ◆ 福島県森林組合連合会

又は 県庁森林保全課  
TEL 024-521-7441

イワフジのプロセッサ

## GP-45V グラップルプロセッサ

**IWAFUJI**  
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追及したプロセッサ

- 高耐久性を追及したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor  
MODEL : GP- 45V

**イワフジ工業株式会社**

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒969-1149 福島県本宮市本宮万世11-7  
TEL 0243-34-5440 FAX 0243-34-5442

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!

大地のめぐみ、まっすぐ人へ  
**SCC GROUP**  
住化グループ

# 自然との調和

( 私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。 )  
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

**野生獣類から大切な植栽木を守る**

ヤシマレント

**蜂さされ防止**

ハチノックL (巣退治)  
ハチノックS (携帯用)

**大切な日本の松を守る 住化グリーン®の林業薬剤**

ヤシマスミバイン乳剤  
ヤシマスミバインMC  
グリーンガードNEO  
パークサイドF  
ヤシマNCS  
モリエートマイクロカプセル  
マツグリーン液剤2  
マッケンジー

**くん蒸用生分解性シート**

与作シート (茶・白)  
(折りたたみ式)  
(専用キャリーバック使用)

## 住化グリーン株式会社

本社 〒104-0032 東京都中央区八丁堀4丁目5番4号  
東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室

TEL.03-3523-8070 FAX.03-3523-8071  
TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

## 効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

# 機器はゼノアから

排気量 **18.3cm<sup>3</sup>**  
世界最小・最軽量、2.2kgの手のひらサイズ

**G2000T** EZ-START

20cm(8インチ)・SP ¥66,675(税込)  
20cm(8インチ)・CV ¥72,765(税込)

排気量 **40.1cm<sup>3</sup>**  
さまざまな用途に対応、本格プロ仕様シリーズ

**G4211EZ** EZ+START

40cm(16インチ)・SP ¥135,660(税込)  
45cm(18インチ)・SP ¥137,865(税込)  
40cm(16インチ)・H ¥135,660(税込)  
45cm(18インチ)・H ¥137,865(税込)

使いやすさを追求したハンドルと  
思いのアクセルワークが可能なトリガーレバー。

**BC2711DW1-EZ**

・防振ハンドルブラケット  
・トリガーレバータイプ  
チップソー ¥79,380 (税込)  
笹刈刃 ¥78,330 (税込)

## ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

# (有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1